

有田地方全議員研修会開催！

平成29年度有田地方全議員研修会が「稲むらの火の館」で開催されました。有田市、湯浅町、広川町、有田川町の議会議員の皆様が一堂に会しての研修会でした。「濱口梧陵と稲むらの火」という題名で津波防災も含めてお話をさせていただきました。議員の皆様は館内での研修だけでなく、広村堤防と避難施設「まもるくん」へ向かわれました。



館内は大賑わい

10月は小中学校の社会見学も多いのですが、一般の方々の団体もたくさんお見えいただいています。「稲むらの火の館」を舞台に、皆様が研修をしていただき、防災の意識を自分の心に持ち続けていただきたいと思います。

<無料団体のご案内>

広川町では、各種団体のうち、町からの補助金交付団体の、防災研修を奨励しています。

こうした団体が、防災研修のために「稲むらの火の館」を利用される場合は、一年に一回は無料で入館していただけます。

研修内容につきましては、「やかた」へご相談してください。団体の目的に合うようなプログラムを組めるようにしたいと思います。

館内も、開館10年が経過し、展示等もリニューアルされています。ぜひ御来館ください。

テレビ取材、相次ぐ！

10月、「館」には小・中学校の社会見学で多くの児童・生徒が来館されていますが、同時にテレビ番組の取材にも来館されています。

13日テレビ和歌山の「国土強靱化が故郷を救う」の取材がありました。世界津波の日2年



目へ向けての撮影で、21日に放送されました。この番組は、これまでも時々取材していただいています。和歌山県内の防災対策が放送されてきました。有田地方全議員研修会の様子も撮影され、堤防見学にも同行されていました。

17日には、毎日放送「ちちんぷいぷい」の「昔の人は偉かった」コーナーの撮影がありました。このコーナーは、今回は、「近畿湯治場めぐり」という企画で、龍神温泉を目指しているということです。今月和歌山市の花山温泉をスタートして熊野古道を南下していました。今回、広川町内の古道を通る途中「館」へ寄っていただいたのです。河田直也アナウンサーとタレントのくっすん（楠雄二郎）氏のかけあいで、館内を見学しながら質問をしてくれました。特に、濱口梧陵記念館に展示している「安政聞録」の津波の絵図と「堤防築造」のジオラマの所で、詳しく質問されました。撮影班一行は、その後出発して、この日は河瀬まで歩いていきました。放送は、11月2日ということですので、この「やかただより」が皆様のお手元に届くころには放送が終わっています。事前に皆様にお伝えできなかったのは残念です。

<教訓>～「安政聞録」より～

津波がおこった時は、橋を渡って逃げてはいけない、川は早く潮が満ちるから。

濱口大明神縁起（その9）

濱田康三郎（かわせみより）

『津浪だ！』と、人々は絶叫しました。そしてその途端に、有らゆる絶叫も、有らゆる物音も、有らゆる物音を聞く力も、山なす怒涛の、四辺の小山を揺動かした程の重壓（じゅうあつ）をもって、幕電の炎にも似た飛沫の雨を降らせて岸を打つ、どんな雷よりも烈しい、名状すべからざる衝撃のために打消されてしまいました。とばかりの間、眼に入るものとは雲のように斜面を立ち昇って来るしぶきの嵐ばかり。人々はただその有様のみで、我勝ちに悲鳴を挙げて後に逃散りました。漸くにして彼等が振り返った時、彼等は白く沸き立ちかえる海が、彼等の家のあった場所の上を狂奔しているのを見ました。それは物凄しい轟きを立てて、道々地面の臓腑を引裂き乍ら退きました。二度、三度、五度と海は寄せては返しました。然し、その都度浪は次第に小さくなりまさり、やがて平常の岸壁にまで引退き、底に止まりました。——然し、それでもなお台風の後のように荒れながら。台地の上では、暫しの程は物一つ云うものがありませんでした。有りとし有らゆる人々は言葉とてもなく、唯眼下に横たわっている荒涼たる様を——物凄い投上げられた岩々や、姿あさましく引きちぎられた崖や、無慙（むざん）にもえぐり出された深海の漂流物や、民家や寺院の空しい跡にまき散らされた砂礫などを見守りました。村は跡形もなくなり、田畑の大部分は勿論、台地さえも姿を消してしまっていました。入江の畔に立ち並んであった家々のうち、いまそれと覚しきものは、遙かの沖合に物狂わしく浮きつ沈みつしている藁屋根以外に、何一つ残って居りませんでした。危機一髪にして脱れ得た死の後の恐怖と、余りに烈しい損害の打撃とのために、唇を動かすものともありませんでした。ようようのことでハマグチは穏やかな声で云いました。

『これだからわしは稲叢に火をつけたのだ。』

彼等の長者ハマグチは、今や最も貧しいものと同じ程貧しくなっていました。何故かといえ

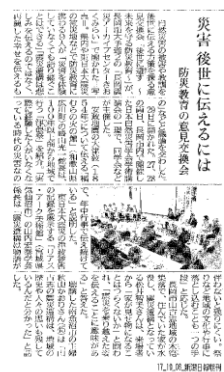
ば、彼の財産は全部無くなったからです——けれども彼は此の犠牲によって四百の生命を救ったのでした。小さいタダは彼の側に走り寄って、彼の手をとり、失礼な事を言って済みませんでした。御免なさい、と言いました。それを見て、人々は始めて自分達の命拾いをなし得た理由に気が付き、そして自分達を救って呉れたハマグチの無造作な、献身的な先見に驚嘆しはじめました。組長達がハマグチ・ゴヘイの前に平伏して地面に頭をすりつけると、人々も皆彼等の例になりました。（つづく）

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〔館長日記〕

9月29日、新潟県長岡市で日本自然災害学会のオープンフォーラムが開催されました。

館長はパネルディスカッションのパネラーとして招かれました。テーマは「後世に遺す～未来を守る防災教育～」ということで、北は気仙沼、仙台という東日本大震災の被災地。南は阪神・淡路大震災の神戸、淡路からの参加、もちろん、地元新潟は中越地震の被災地、コーディネーターは、地元長岡技術科学大学の先生方ですが、コメントーターは災害史研究で有名な北原糸子先生でした。館長だけが実際の地震・津波を体験していませんでした。しかし、災害を長く伝承しているということで、先生方からの質問もありました。災害を伝承して、次の防災に繋げる重要性が議論になったと思います。後日、新潟日報にも掲載されました。



<稲むらの火の館の紹介>
 濱口梧陵記念館/津波防災教育センター
 〒643-0071 住所 和歌山県有田郡広川町広 671
<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuranohi/>
 *開館時間：午前10時～午後5時(受付終了4時)
 *休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)
 (世界津波の日の11月5日は開館)
 年末年始(12/29～1/4)
 *記念館だけの入場は無料です。